



# オトメ病棟

This is "otomeyakuin" by yuyuko  
Illustrated by TANAKA, Chitose in 2006, written  
for Adult Only...



スチュッ!  
ズキュッ!

どうじゃ主任さん  
ケツ穴とマンコ  
ぶちこまれて最高じゃろ

はい...っ!  
き...  
気持ちいい...っ!

今日もこのエロチンポ  
たっぶり舐めさせて  
やるからのう

あ あひいっ!  
ありがとう...い...  
ございますうっ

ほうれ  
ザーメン洗刷じゃ  
うれしかろう?

んあああああっ!  
あつ...いいいっ!  
チンポ熱い...っ!

らめええっ!  
イク...っ  
イクろうっ!

まだまだ  
ワシらが満足  
するまで我慢せいで

しかし比良坂先生は  
天才じゃなあ

あんなに反抗的だった  
主任さんがこんなに  
従順になりおった

ヒヤハハ  
見てみる  
このアホ面

そうよ…当然たわ  
私は平仕看護婦…  
従順な肉奴隷

絶対に反抗なんか  
しないわ

何でも  
いうことをきくし  
どんな卑猥な  
ことだって……

だから

きひやあああああ！  
チンポ チンポの皮に  
だ 出されてるうううっ！

あああつ！ 熱い！  
あつ…いあああ！

だから

よおし  
そろそろイカせて  
やるか！





ブイッ  
イイッ

グウウウッ!!  
グウウウッ!!

やつと悪夢が終わる

グウウウッ!!  
グウウウッ!!



あ はい  
風邪…ですか

あーま

え ええ…ゴホ  
ごめん…さいね  
ゴホッ

いえいえ  
気にしないで  
ください

昨日は随分ハード  
だったようですし

病院に行つた方がいい  
んじゃないですか

その病院にのる  
変態医師が全ての  
元凶なんだけど。

あーま  
おはよう  
おはよう  
おはよう

あーま  
あーま  
あーま

早く！早く！  
早く！早く！

飯病なんて  
はじめてね…

でも 確かに  
昨日は死ぬかと  
思ったわ！

あの夢はラストを  
除いて全部 現実

奉仕看護婦でありながら  
いつまでも反抗的な  
私に対する調教実験のため

ペニスを生やされたのが  
二ヶ月ほど前のこと

効果は恐ろしいほど顕著で  
私は一日中性欲に苛まれ

病院でも家でも  
屋外でも満員電車の  
中ですら

絶えずオナニーをしては  
射精し続けねば正気が  
保てない身体になった

それなのに なぜか  
他人に触られると  
射精できない

昨日もそうだった  
激しく責められて  
何度絶頂を迎えても

あの夢のように  
思い切り出せたなら  
どんなに楽だろう

患者達の責めは  
日に日に過酷になる

このままじゃ…  
本当に 私…

壊れ…て……







最近はその人たち  
主任さんに対しては  
本当に酷くて…

今日は本当に何か  
あったんじゃないかって…  
ずっと心配でした

汚れた部屋に  
壊れた人形みたいになった  
主任さんがいました

目の前にいる私に  
気がつかないほどで

ありがとう  
でも大丈夫よ  
確かに強烈だけど…

昨日だって 結局  
大声で「気持ちいい」  
って何度も何度も  
言ってたし…

言ってますよ

やっぱり…  
覚えてないんですね

藤沢さん…?

昨晚…私 比良坂先生に  
あの部屋の片付けをするように  
命じられました

「礼美が壊れて動けないから  
なんとかしとけ」とも

ただ 消え入りそうな声で  
何度も何度も



助けて...

ごめんなさい...

助けて...

なんでも...  
します...

助けて...ください...



何が...  
「大丈夫」ですか

何が「気持ちいい」  
なんですか!

記憶が重んじやうくらい  
ボロボロなのに!



!



私が雨をかけても  
身体を洗っていても  
ずっと泣いていたくせに!

ここへどうやって  
帰ったのかも覚えて  
ないくせに!

私…臆病で…  
比良坂先生に逆らう  
こと…できません…

主任さんを助けることも  
出来ませんでした

むしろ初めは同じ  
奉仕看護婦として選ばれた  
ことが嬉しかった

一緒に犯されている  
ことすら…幸せでした

でも…でも…っ  
この病院に入ってから  
ずっと憧れていた人が


大好きな主任さんが  
あんな風に壊されるのを  
見ていられなくて…っ

でも…私は…  
無力で…

ごめんなさい…  
主任さん…私…  
う…あああ…っ

ありがとう…  
藤沢さん

でも ちよつと  
困っちゃうな  
そういう告白…



ナースが患者を  
泣かせちゃ  
ダメじゃない



…お願い  
藤沢さん…

主任…さん…  
私で…いいんですか

身体が素直に  
なっている

無意識のうちに  
抑え込んでいた身体の  
痛みや苦しみが  
じわじわと蘇ってくる

ええ  
あなたが…いいえ  
垂子でないとダメなの

それと同時に  
初き上がる大きな高揚と  
果てしない安堵感

はい…主任さ…  
いえ…礼美さん…

私は今  
初めて癒されている  
愛されている



ちよ ちよつとまつて…  
わ私…口でされるの  
ははじめて…なのっ

だから…ゆ、ゆっくりい…  
らめえ…亜子の口…すこ…  
も もう…出そうなの…っ

やだ…はじめて…っ  
こんなの…こんなに気持ち  
いいの…初めてなの…っ



ちよ…っ!!  
亜子…おあううっ!!

らめ 喘んだら…  
きやあああうっ!!

イクッ  
ズッ!!







は…はひっ！  
あ…ふあああつ！

こ…これ…があ…  
ホントの…  
チンポ射精い…っ

きもじ…  
いいのお…っ

ほろっ。

どろ～

!?  
あああつ！  
ごめんなさい聖子！

つ…ついで出しすぎちゃつて！  
ご、ゴメンね 大丈夫？

あああ

あはい…  
大丈夫です

でも  
涙出て…

オロ  
オロ



あ…あはっ  
すみません 私また  
泣いちゃつて…

ホッとしたり  
つい…

もし射精して  
もらえなかったら…

私 あの人たちと同じに  
なっちゃうのかなって  
すごく…不安だったから…

ドキ

亜子…私だって不安だったのよ

え…

あなたで射精できなかつたら…ほかに誰がいるっていうの？

もう一生オナニーでしかイケない身体になるところだったんだから

あ…  
礼美さん…

んふ…やつぱりいつものと違うわ

センスリザーメンより濃くて臭くて…んっんく…美味しい…んっ…

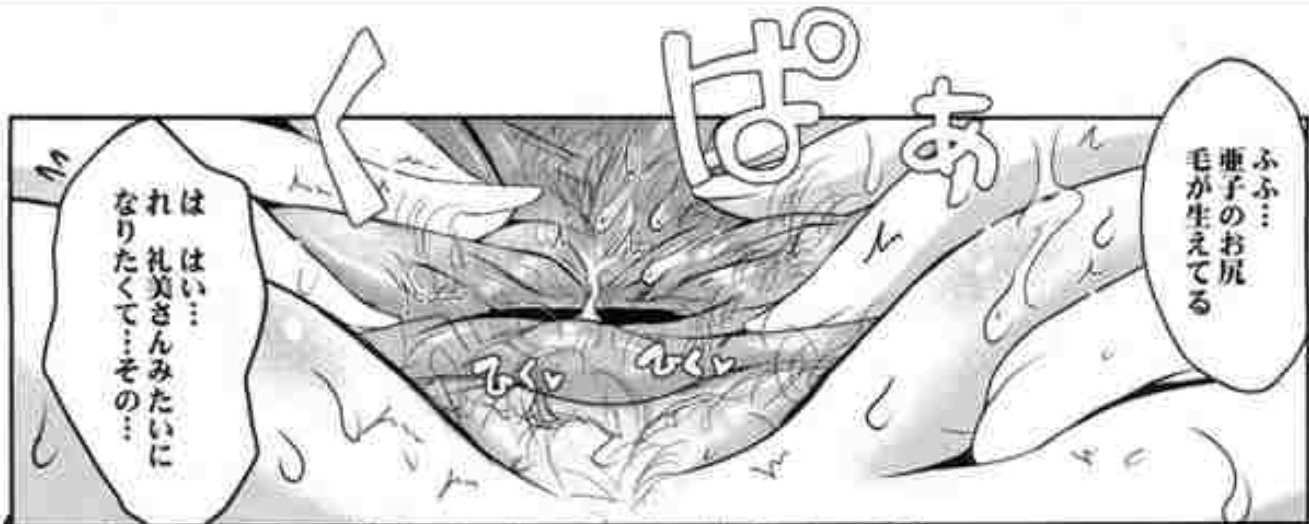
亜子の身体が気持ちよかったからすこく催しかったからこんなに出的のよ…

ああ…  
礼美さ…あん…っ

ん

亜子…ありがとう  
あなたが初めての人でよかったわ

私も…あなたが好き  
愛してるわ 亜子



ふふ…  
垂子のお尻  
毛が生えてる

はい…  
れは礼美さんみたいに  
なりたくて…その…



んふ…可愛い♪  
じゃあ私がいつも言わされてる  
『おねだり』…言える？

お…

はい…



あ あの…ケツ毛まみれの  
変態ナースの肛門に…  
チンポ…入れてください

それから？

お お尻…ケツ穴の中の  
ウ…ウンチをくちよくちよに  
犯して…はあ…ザーメン…

ザーメン？

ち…チンポ精液を…私の…  
藤沢垂子の淫乱なクソ穴  
肉便器に…ふちまけて  
ください…ああ…ああ…

は…早く…入れてください  
私のケツ穴は礼美さんの  
チンポ専用です…ですから…  
ですから早くう…っ

ふふ 合格♪

ぬちゅ…っ

私の童貞…垂子の  
ケツ穴にあげるわね

は…はい…嬉しい…  
ませ…しあわせですう…っ！

私も…っ！ あひい！  
ああ…こんなに…感じるの  
は初めてれすう…っ！

あ…んっ！  
気持ちいい…柔らかくて…  
熱くて…ちんぼ…ちんぼ  
とろけそう…あああ…っ！

ああ…垂子！ 垂子っ！  
分かる？ 私…犯してる！  
あなたの肛門を…ケツ穴を！  
チンポであなたを犯してるうっ！

はあああ…っ！  
礼美さん…突いて…  
犯してくださいっ！

わわ…わたく…しの…  
ああっ！ け…ケツ穴便器で  
いっぱい…チンポに  
ご奉仕させてくらさいっ！

好きよ！ 好き…大好きっ！  
亜子のケツ穴愛してるっ！  
あああ…感じるの！

精液…もう我慢できない！  
出すわ！ いっぱい出すの！  
チンポ汁ひり出していいっ？

ねえ！ チンポ流腸で  
亜子のウンチ  
犯していいっ？

ズキッ！ズキッ！

はヒ…っ！  
出して…く、くださいっ！  
いっぱい！ いっぱい！  
全部わたくしのなか二い！

ああおあっ！  
出てるううあああっ！  
礼美さんのちんぽ汁があ…っ

う、うんこ射精ええ！  
ぐちよぐちよって…  
ぐちよぐちよグチヨってっ  
混ざってルううううっ！

ふわふわっ♡

あつ！んあああつ！  
礼美さ…あああつ！

はあ…はあ…  
亜子…亜子お…  
欲しい…欲しいの…

私のチンポに  
からみついてる  
コレ…

亜子のケツ汁…  
私にも…私にもおつ！

ああああつ！  
らめえええつ！礼美さ…  
あああつ！抜いたら…  
チンポ抜いたら…っ！

で…出ヒヤうううっ！  
あああああつ！らめええつ！  
ウンコが出ちやううううっ！  
ぞくぞくぞくぞく

出して…垂子っ！  
私に…ケツ汁  
ぶっかけてええっ！

わっわっわー



んあっ

あっ…

あっ…

あっ…

イク…  
イクうっ！

あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ…

あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ… あっ…



礼美さん…あはああっ！  
吸ってるう…礼美さんが…  
私の…ウンチ飲んでるううっ！

あつ！んおあつ！  
らめええええつ！  
そんなに強く吸つたら  
また…イクううっ！

ズルズルズル

んまがッ

いつしか  
すっかり  
隔は落ちていた

しかし  
胸を叩いてあふれ出した  
愛液はさらさらの音を  
知るな

夜が深まるにつれ  
私たちの狂気に彩られた  
愛も深みを増していく



私はようやく一つの答えを見つけていた

まともな思考も理性も羞恥すらも霞んでいく中



んあああつ！  
うんこ…いいいい！  
重子…っ！ 重子おっつ！

はい…全部…  
私にください…

重子…ら…

従順でなかったのはこの異形の肉なんかじゃなかった

ドホドホドホドホッ

私のペニスは  
果てなく種子を求める

忌まわしき肉塊は  
いまや完全に私  
そのものだった



いや 初めからコレは  
私自身だったのだから

「新城礼美」に従順で  
なかったのは私の  
心のほうだった



礼美さん…  
お願いです…  
おまんこ…して…  
ください…

礼美さんの種子で  
子宮の奥まで犯して…  
孕ませて…下さい…

あの男たちが与える恐怖を  
捻じ曲げて快楽として  
受け入れようとしていた

でも身体はそんな  
弱い心に それを違うと  
訴えていたのだ

愛すべき私の分身は  
「私」よりも「私」  
だった



そして今 それを  
気付かせてくれた大切な人と  
私自身で繋がっている

こんな  
夢のような  
幸せがあるだろうか

うん…

赤ちゃん  
つくろっか…

もう悪夢の夜はいらない

あ 七瀬さん？  
ええ…ごめんなさいね  
今日もお休みを…

絶対安静なんですって  
ベッドから出しても  
くれないのよ



ええ 治ったら  
孕仕看護婦の仕事は  
しつかりやるわ

あの人たちが  
「もう許して」って  
言うくらい…たっぶりね

そうね…  
でも心配しないで



今はただ

私にはとつても頼もしい  
ナースがいるから

二人だけの朝が  
あればいい

おまじの〜車中の日記



おまじの〜車中の日記

おまじの〜車中の日記

おまじの〜車中の日記







いつしか私たちの二オイで室内は満たされ、会員の皆さんもぞこらじゅうでオナニーしたいセックスし始めました。プールサイドは数十人の男女が垂れ流す精液や愛液、糞便がひろがり、建物の中には喘ぎ声と嬌声が響いています。

そんな中で私たちもごく自然に抱き合い、繋がっていました。あんなに射精していたのは礼美さんのチンポは私のおまんこに入った途端に大量のキタマ汁をぶちまけます。赤ちゃんが縮れちゃうんじゃないかと思うくらい。でも、うちのチンポはまだ勃起したまま、私の肉穴にギュッギュッって締め付けられたいこあられたい愛撫される度に嬉しそうに跳ね上がり、とめどもなく精子たっぷりのキタマミシクを飲ませてくれて、その快感に私も嬉しくなって何度もイってしまいました。

気付けば私たちの周囲も会員の方々が取り囲み、熱っばい唾で見つめてくれていました。不思議ですね。奉仕看護婦の時はあんなに怖かったのに、今ではみなさんがとても愛しい。そんな私の気持ちも礼美さんにも伝わっていたようで、私たちは口をそろえて「精液をかけて！ おしっこ飲ませて！ もっと、もっと私たちのセックスも…フタナ！チンポもポテも、ケツ穴も喉もおまんこも精液もウンコもだらしないうちの顔も…全部見て！ 見て！ 見てっ！」と叫びながらイキ狂っていたのです。



結局、私も会員になってたまに通うことになりました。ごめんと、礼美さんはちょっと困惑していたようです。「ゆっくりと水の中で浮きたい動きたい泳ぎたいするのが妊婦の身体にはいいって聞いていたから試してみたけど、泳ぐどころかいつも以上にハードなセックスになってしまって…ごめんなさいね」

もうウノばかり。うちのあんなに無気なポティーベントなんてあるはずないじゃないですか。病院ではマジメで厳しい礼美さんは、こういうウノがとっても下手なんです。そこが可愛いところですけど、他の誰も知らない、ちょっとカッコ悪い礼美さんが私は大好きです。

「でも、私が勤務している時には、あまり行かないでね。その…あ、あんなところで産気づいたら困るし…」  
「あ、また目が泳いでる」 行かなくてまあよ。礼美さん以外のひととセックスしに行きたいしませぬ。それに…  
「この子も産む時は、私が一番信頼している産婦人科の看護婦さんをお願いすることは決めてまあから」  
「あ……」

「だから礼美さんも私から離れないで下さいね」

才下又病棟

我流痴帯

<http://tana00.sakura.ne.jp>

2006\_Winter

